

令和3年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

山形県立酒田光陵高等学校

学校教育目標	1 進取の気性を持ち、知徳体が調和し、心身ともに健康な人間を育成する 2 高い専門性と国際的な視野を持ち、公益の心を持つ創造力豊かな人間を育成する 3 地域の産業や文化・環境を理解し、地域を大切に思う人間を育成する	重点目標	1 豊かな心と健やかな体の育成 2 社会を生き抜く基盤となる確かな力の育成 3 学校・家庭・地域との連携・協働による開かれた学校づくり
目指す学校像	1 普通教育と専門教育を併せ持つ、学際的な教育を展開する高校 2 特色ある教育活動を展開し、多様な進路希望を実現できる高校 3 公益活動、自然環境の保護、及び国際化に取り組む高校 4 地域と連携・交流し、地域社会の発展を担うリーダーを育成する高校 5 スポーツ・文化活動の地域拠点校としての役割を担う高校		育てる生徒像

達成度	A・・・達成	B・・・概ね達成	C・・・やや不十分	D・・・不十分
-----	--------	----------	-----------	---------

自己評価(年間)					学校関係者評価		総括
番号	評価項目	具体的方策と指標・基準等	目標達成状況及び取り組み状況	達成度(前年)	次年度に向けた改善策	意見・要望・評価等	
1	豊かな心と健やかな体の育成	①笑顔とやさしさ、挑戦する勇氣を育む教育の推進 ②端正な装いと元気で明るい挨拶の推進 ③心身の健康バランスを育てる部活動の充実	○ コロナ感染防止を徹底し、生徒の安全安心の確保に努めた。 ○ 多くの生徒は、ルールを守り、元気に学校生活を送ったが、進路決定後の一部の生徒に若干生活態度の乱れが見られた。 ○ 感染対策で部活動が制限される中、工夫しながら活動し、各大会で活躍するなど、生徒も心身ともに成長できた。	B (B)	○ コロナ禍でも、生徒同士が良好な対人関係を築けるように、ソーシャルスキルトレーニングなど、対人関係構築の施策を実施する。 ○ 働き方改革や部活動の在り方に関する指針をもとに、部活動の適切な運営と活性化に取り組む。	○コロナ感染防止に取り組みながら、教職員間で情報を共有し柔軟に対応したことで、生徒たちは概ね落ち着いた学校生活を送っている様子がうかがえる。 ○コロナ禍の生活の中で、ストレスや不安、悩みを抱える生徒に対するケアやサポートを、関係機関等とも連携・協力しながら引き続き取り組んでいきたい。	○コロナ禍の制限の中、情報共有と柔軟な対応により、概ね目標を達成することができた。今後も生徒が自尊心を高め自らの力を伸ばし成長できるように、PDCAサイクルを意識して指導を行っていく。
2	社会を生き抜く基盤となる確かな力の育成	①社会人基礎力を育てるキャリア教育の充実と評価基準の研究 ②基礎学力の定着に資する、授業及び評価の研究推進 ③生徒の主体的な学びに資する、新たな授業方法の研究と実践	○ 企業や大学等と連携した授業や活動を通して、社会や地域の課題に取り組む意識を高めるとともに、資格取得にも積極的に取り組み、社会人基礎力を高めることができた。 ○ ICTを活用した学習指導や「指導と評価の一体化」に関する研修を行い、教職員の意識を高め、指導力向上に役立てることができた。 ○ すべての普通教室に黒板投影プロジェクトを整備することができた。	A (A)	○ 一人一台PCの導入により、教員によるICTを活用した指導力向上と、生徒の家庭学習における効果的なICT活用を図る。 ○ 地域との連携・協働をさらに推進し、地域社会を担う人材育成をより一層推進する。 ○ 専門学科間の連携・協働による学際的な学びを推進する。	○コロナ禍の様々な制限の中、ICTも活用しながら工夫を重ね、資格取得や進路希望の実現に高い成果を上げている。 ○企業等外部と連携・協働しながら、生徒が自己のキャリア形成や社会的課題への関心を高められる取り組みをさらに進めてほしい。 ○生徒が自分の個性をもっと引き出せるような指導をお願いしたい。	○今年度も高い進路実績を残すことができた。特に国公立大学合格者数が開校以来最多の10名となったことは、本校の新たな魅力や可能性を感じられる。引き続き本校の特色を活かした進路指導やキャリア教育に取り組んでいく。
3	学校・家庭・地域との連携・協働による開かれた学校づくり	①地元を知る学びの推進と学校を核とした地域づくり ②地域貢献に資する教育活動の推進 ③ICTを活用した情報の発信と共有の充実	○ コロナ禍で制限される中でも、工夫しながら地域の企業など関わる活動を積極的にを行い、地域課題の解決に向かう意識を高め協働することができた。 ○ 「さくら連絡網」を有効に活用して、緊急連絡や各アンケートなどを迅速に行うことができた。	B (A)	○ コロナ禍の制限の中、家庭と学校間のコミュニケーションのあり方や情報発信の方法を検討していく。 ○ 地域貢献活動やそのベースとなる教育活動が、学科や年次の特徴を踏まえながら、学校全体のものとなるように検討していく。	○コロナ禍においても、ICTの有効活用や様々な工夫により、成果を上げている。 ○学校外の交流や生徒会の活性化をさらに取り組んでほしい。 ○学校と生徒・保護者とのコミュニケーションに課題を感じられるので、ICTを活用し情報共有と対話をお願いしたい。	○ICT機器やSNSの活用で、教育効果を最大限高めるための取り組みを継続します。 ○生徒の協働的な学びのため、一般社団法人SKIESの活動を今後も積極的に発信いたします。
自己評価及び学校関係者評価の改善点等		○コロナ禍において、生徒や保護者とのコミュニケーションや情報提供がより円滑に行われるようにする必要がある。 ○生徒の進路やキャリア形成に対する意識を高め、地域社会の担い手となる人材育成をさらに推進する必要がある。					